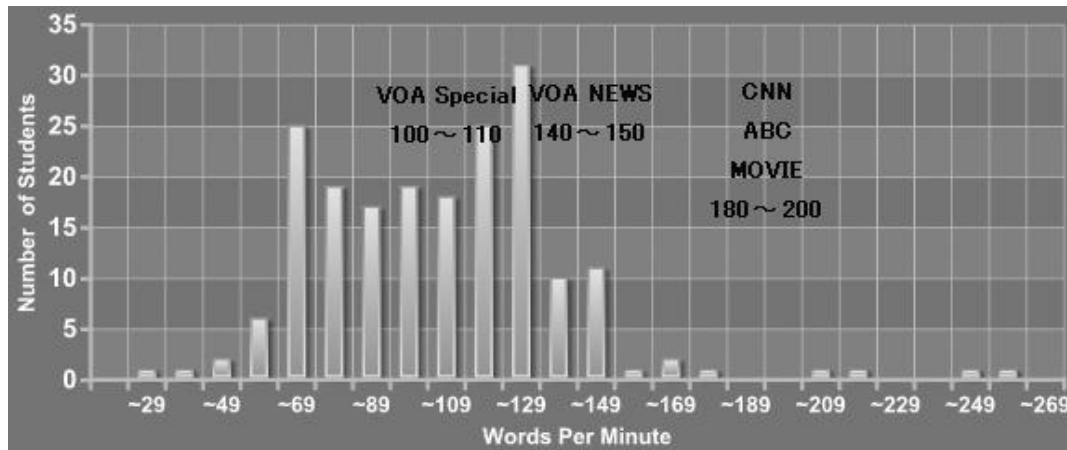


秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」  
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	学習者の弱点を集中的に個別矯正する多読・速読プログラムの開発		
研究代表者	岡崎 弘信	役職	准教授
フリガナ	オカザキ ヒロノブ	学位	文学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	<a href="mailto:okazaki@akita-pu.ac.jp">okazaki@akita-pu.ac.jp</a>
主な共同研究者(学内)	なし		
主な共同研究者(学外)	新田晴彦（専修大学）、木戸和彦（環太平洋大学）、橋本信一（創価大学）		

研究の内容

我々が日本人大学生193人(3大学、理系・文系混合)に対して実施した英文読書速度の調査結果では、読書速度の平均は102.69WPMで、毎分60語から120語あたりが一般的な数値である。これに対して、外国人向けVOA Special Englishのスピーチ・レート(発話速度)が約100WPMで、一般(ネイティブスピーカー)向けVOA Newsでは140~150WPM、CNNやABC News、映画で180~200 WPM程度である。



日本人大学生193人の英文読書速度

通常、自分の読書速度より速く読もうとすると意味が捉えられなくなるが、同様に、スピーチ・レートと読書速度の大きな乖離の意味するところは、自分の読書速度よりも速いスピーチ・レートで話された場合、意味の理解が困難になってしまうということである。つまり、スピーチ・レートが約100WPMのVOA Special Englishなら読解速度102.69WPMの平均的日本人大学生はなんとか意味を処理しながら追いかけていけるが、スピーチ・レートが彼らの読解速度を上回るVOA、CNN、ABCなどのNews、映画となると、部分的に聞き取れるにしても、連続する発話に対して意味処理速度は明らかに及ばないのである。逆の視点から見れば、「ナチュラルな英語の聴き取り率を向上させるには、読書による意味処理スピードを上げることが有効」と予測される。

以上のようなことから、本研究では、「ナチュラルな会話スピードに学習者の意味処理スピードが追いつかない」問題を解決するために、持続的、かつ効果的な多読・速読学習法の提供を可能にするリーディング用プログラムの開発し、そのプログラムを実際に利用して、どの程度多読・速読による意味処理スピードのアップが可能かを検討することである。

### 研究の独自性・アピール点

本研究では、これまで存在しなかった次のような多読・速読向けのオリジナルブラウザ「PREMA (your Personal Reading MAnager)」の開発に取り組んでいる。

- ① 読み込んだホームページをなんら加工することなく、ハイライトとクリックだけで、多読・速読のための読語数・読書時間・1分間あたりの読語数を表示・記録する機能を備えている。
- ② 読み込んだホームページに表示されている言語の語彙レベル・文章レベルが、学習者の語彙レベルに対してどの程度のレベルなのか、難しすぎる・やや難しい・ちょうど良い・やや簡単・簡単すぎるなどの判定・表示機能を備えている(6)。
- ③  $i+1$ のインプット仮説に基づき、学習者の語彙レベルに応じた教材のリストを事前に作成する機能を備えている。
- ④ すべての学習履歴を自動的に記録できる機能を備えている。
- ⑤ 多言語に対応する機能を備えている。

### 期待される成果・波及効果

これまで我が国の英語教育は、このような武器を持たず教員の経験と器量に頼ってきたが、我々が研究を進めるeラーニングプログラムを提供できれば、教員は具体的な指標に基づいた学習ルートを学習者に示すことができ、学習者の側も安心して学習に取り組めるようになるはずである。

### 関連する主な業績

OKAZAKI, HASHIMOTO, FUKUDA, NITTA & KIDO, "Development of an e-learning program for extensive reading," Proceedings of Euro CALL2012, (2012).  
HASHIMOTO & OKAZAKI, "PREMA: An Extensive Reading Work-in-progress," Social and Behavioral Sciences, volume 34, 88-93, Elsevier, (2012).  
OKAZAKI, NITTA & HASHIMOTO, "Internet-based Personal Reading Program: a program for Japanese EFL learners to overcome individual weaknesses," World CALL 2008 Proceedings, (2008).

### キーワード

eラーニング、持続的・効率的な学習、リーディング